

## 2025年(令和7年)

## 1月例会

日時：1月11日(土)14時より

会場：法政大学市ヶ谷キャンパス大内山校舎 Y606 教室

## 特別講演

講師：国際日本文化研究センター 牛村圭

題目：比較文学で陸上競技を読みなおす

司会：國學院大學 町田樹

## 3月例会

日時：3月15日(土)14時より

会場：法政大学市ヶ谷キャンパス大内山校舎 Y606 教室

講師：東京経済大学(非常勤) 小坂恵理子

題目：日米両言語で書かれたキベイ文学の戦略

— ミノル・キヨタの「自伝」と「フィクション」を通じて —

司会：都留文科大学 中地幸

INSIDE THIS ISSUE

1. 1月・3月例会案内
2. 例会要旨等
3. 東京支部短信

役員連絡会開催のお知らせ

2025年1月例会終了後、対面およびオンライン方式で開催します。(役員連絡会の構成員は支部長、事務局長、事務局委員、各種委員会委員長です。委員会の委員、幹事は含まれませんが、陪席を歓迎します)

幹事会開催のお知らせ

第3回幹事会

2025年3月例会終了後、対面方式で開催します。(幹事会構成員は、幹事、支部長、事務局長、各種委員会委員長です)

# 1月例会発表要旨

## 【特別講演】

### 比較文学で陸上競技を読みなおす

国際日本文化研究センター 牛村圭

かつて森鷗外は洋学（西洋の学問）受容にあたっての三つの類型を簡潔に掲げた（「洋学の盛衰を論ず」1902年）。具体的には、①原書や翻訳の読解、②お雇い外国人による指導、③洋行や留学での直接体験、の3種類である。明治期、狭義の学問に加えて様々な西洋起源のスポーツも移入されるに至った。その一つである陸上競技（track and field athletics）については、洋学と同様な受容パターンを見て取ることができる。すなわち、近代日本陸上競技史は、洋学受容史としての特徴を有していると言ってよいだろう。本研究報告では、鷗外が説く洋学受容の3類型を日本の陸上競技史上で概観したのち、書籍を通じての移入のパターン（原書や翻訳の読解）を取り上げる。具体的には、明治期の陸上競技の教本として知られる2著作——武田千代三郎『理論実験 競技運動』（博文館、1904年）、大森兵蔵『オリンピック式 陸上運動競技法』（運動世界社、1912年）——を考察の俎上に載せる。

その際、ある国の文学作品に看取できる外国文学による影響の痕跡を探索し、それが受容側の作品にいかなる効用を生んでいるのかを考察するという比較文学研究の手法を用いることとする。上記の両著作にそれぞれ影響を与えたと推測される欧米での先行著作——Walter Thom, *Pedestrianism; or An Account of The Performances of Celebrated Pedestrians during the Last and Present Century* (London, 1813)、及び John Graham & Ellery Clark, *Practical Track and Field Athletics* (New York, 1904) ——と読み比べ、異同を具体的に指摘して比較検討する。日本体育史上における明治期先人の知的格闘の跡を紹介する場ともしたい。

# 3月例会発表要旨

## 日米両言語で書かれたキベイ文学の戦略 ——ミノル・キヨタの「自伝」と「フィクション」を通じて——

東京経済大学（非常勤） 小坂恵理子

実質的に無国籍状態でありながらアメリカ兵士として朝鮮戦争に送り込まれたキベイ（日系二世で、日本に渡って教育を受け、その後アメリカに帰国した者）を主人公に据えたミノル・キヨタ（清田実、1923-2013）の『日系反逆児——アメリカにおける民権蹂躪と迫害の記録』（1990）では、主人公の啓一は、日本語を話せるため、かつて帝国日本の支配下に置かれていた韓国の兵士を尋問する任務を課されている。米国で生まれ育ち十代を平塚で過ごした、キベイ清田の人生体験とも重なり合い、米国社会では差別される側でありながら、日米の国家による帝国主義的な行為に二重に加担してしまっていることへの葛藤、そして、自分が置かれた現実の状況と日米の「架け橋」たらんとする理想とのギャップに、啓一は苦しみ続ける。キヨタは、キベイの「心」を描き出すために、本作を敢えて「客体的な記録文学」ではなく「フィクション」として書いた。その意図は、三人称で書かれながらも啓一の内面描写が織り込まれた地の文や、彼と様々な背景を持つ人物達との交流を生き生きと描き出す会話の多用という、本作の語りへの傾向にも表れている。

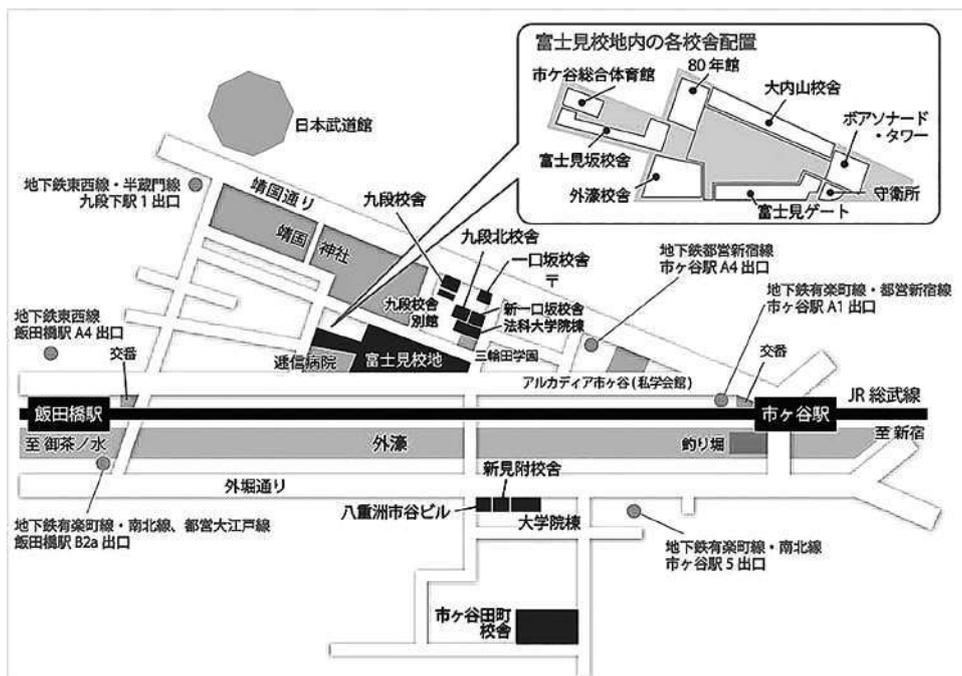
しかし、日系アメリカ人に関する知識が乏しい日本の読者に配慮して、キヨタは多くの「客体的」な説明を加えなければならなかった。これは、本作のアメリカ版 *Beyond Loyalty: The Story of a Kibei* (1997) が、アジア系アメリカ文学の *life writing* の流れを汲みつつ、アメリカの読者に向け、人権蹂躪に抵抗したキベイの自伝文学作品として書き直されたのとは対照的である。民族学研究のケイコ・ヤマナカやアジア系アメリカ研究のフランクリン・オドがこのアメリカ版を、キベイ体験を描いたキヨタの自伝として歴史的価値を評価している点にも、実際にこれが自伝というジャンルの枠内で読まれたことは明確に表れている。本発表では、想定読者と使用言語に応じてジャンルや語り方を使い分けるキベイの戦略に焦点を当てて本作の原書とアメリカ版を比較しながら、両者の間にある「いびつさ」もしくは「不協和」を明らかにし、その裏にある翻訳者リンダ・クレプリングの介在という問題を考えたい。

# 1・3月例会会場

法政大学 市ヶ谷キャンパス 大内山校舎 Y606 教室

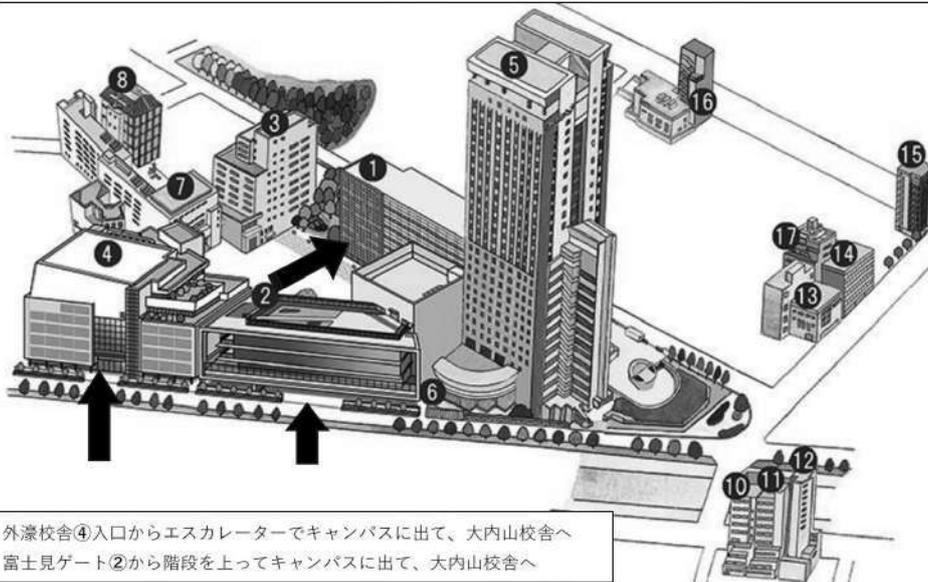
〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

- ▶JR 総武線・東京メトロ有楽町線、南北線、「市ヶ谷」駅または「飯田橋」駅徒歩 10 分
- ▶JR 総武線・東京メトロ有楽町線、南北線、東西線、都営大江戸線「飯田橋」駅徒歩 10 分
- ▶都営新宿線 「市ヶ谷」駅徒歩 10 分



法政大学 市ヶ谷校舎 Y606 教室

大内山校舎 ① (入ってエスカレーターで、あるいは、左奥にあるエレベーターで 6 階へ)



外濠校舎④入口からエスカレーターでキャンパスに出て、大内山校舎へ  
 富士見ゲート②から階段を上ってキャンパスに出て、大内山校舎へ

# 東京支部短信

## 〈訃報〉柳富子氏

ロシア文学者で早稲田大学名誉教授の柳富子先生が2024年11月7日、逝去された。享年92歳。柳先生は早稲田大学比較文学比較文化研究室長などを歴任され、早稲田の比較文学研究(そして言うまでもなく、ロシア文学研究)を代表する存在であるとともに、長年、日本比較文学会理事を勤められ、「ICLA 91東京会議」を一つの頂点として、質量ともに充実期にあった学会運営に、多大な貢献をなされた。ご研究の軸をなすトルストイとチャーホフについての、手堅くかつ視野の広い、スケール豊かな比較文学研究の成果のほどは、『トルストイと日本』(1998)、『ロシア文化の森へ:比較文化の総合研究』(2001)などの著書・編著にまとめられている。柳先生が亀井俊介編『現代の比較文学』(1993)に寄せられた「参考文献:日本における最近三十年間の成果を中心に」は、日本の比較文学研究史を語るには欠かせぬ貴重なドキュメントである。

理事会や学会活動での柳先生は、いつも臆せず、遠慮なく、正論を吐かれる厳しさと、当時の私のような新米の理事に対しての心配りも欠かさない、温かさや細やかさを兼ね備えた方であった。早稲田露文で多くの優れた弟子を育てられたことが納得された次第である。早稲田大学国際会議場を借りて開催された21世紀最初の全国大会(2001年)で、大会実行委員長として終始陣頭指揮をされ、懇親会の料理に至るまで、あれこれ采配を振るっておられた、澁漣としたお姿が忘れられない。心よりご冥福をお祈り申し上げます。(井上健)

## 月例会発表者募集

支部月例会の発表者を募集しています。申し込みは支部事務局(hikaku.tokyo@gmail.com)に氏名、所属、題目、連絡先(メールアドレス、電話)を明記したうえで、600~800字の要旨を添えて電子メールで送信、または郵送でお願いいたします。支部役員に託されても結構です。発表時間は45分(質疑応答を除く)です。

## 東京支部事務局より「お知らせ」の配信について

東京支部では支部会員のみなさまにメールマガジンの「お知らせ」をお届けしています。原則として毎月1日発行で、例会や支部大会などの情報を掲載しています。これまでお手元に届いていない方は、日本比較文学会東京支部の支部会員のページの「お知らせ」のウェブサイト(<https://www.hikakutokyo.com/mm>)のフォームにご記入のうえ「配信希望」をクリックして下さい。メールアドレス変更の場合も、お手数ですが、新アドレスで再登録をお願いします。

## 例会の開催方法について

現在、例会の開催方法は原則として対面開催とし、発表者の許可を得、資料における著作権等の問題がない場合は、一定の制限の下でZoomによる同時配信を行っています。各会場の設備が異なりZoomでの参加者の発言を会場と視聴者の両方に出力する環境はまだ不安定なため、オンライン参加者からの質問はZoom上のチャット利用に限定しております。また、発表者の資料は、基本的にはホームページ上で配信した情報(要旨)に限っていますが、発表者本人が、著作権をクリアした資料を作成し、チャット上に掲示する場合は、この限りではありません。

### 日本比較文学会東京支部ニューズレター 147号

発行人：宗形 賢二

編集委員会（編集担当）

委員長：椎名 正博

委員：岩下 弘史 亀井 伸治 越野 剛 庄子 ひとみ 鈴木 美穂  
中垣 恒太郎

事務局 事務局長：宗形 賢二 会計担当：土田 久美子

事務局委員：小泉 泉 芳賀 理彦 畑中 健二 蒔田 裕美

JCLA

日本比較文学会東京支部

事務局住所

〒411-8588

静岡県三島市文教町 1-9-18

日本大学国際関係学部

三島駅北口校舎 607研究室(宗形賢二)

TEL：055-980-1924

E-mail: hikaku.tokyo@gmail.com